

## 文化財建造物の国新規登録について

平成22年1月15日

文化財課

国の文化審議会において、国登録有形文化財として下記の文化財の登録に係る審議を経て文部科学大臣に答申され、鳥取市二階町の五臓圓ビルが平成22年1月15日に登録されました。

## 登録文化財名称

## 五臓圓ビル

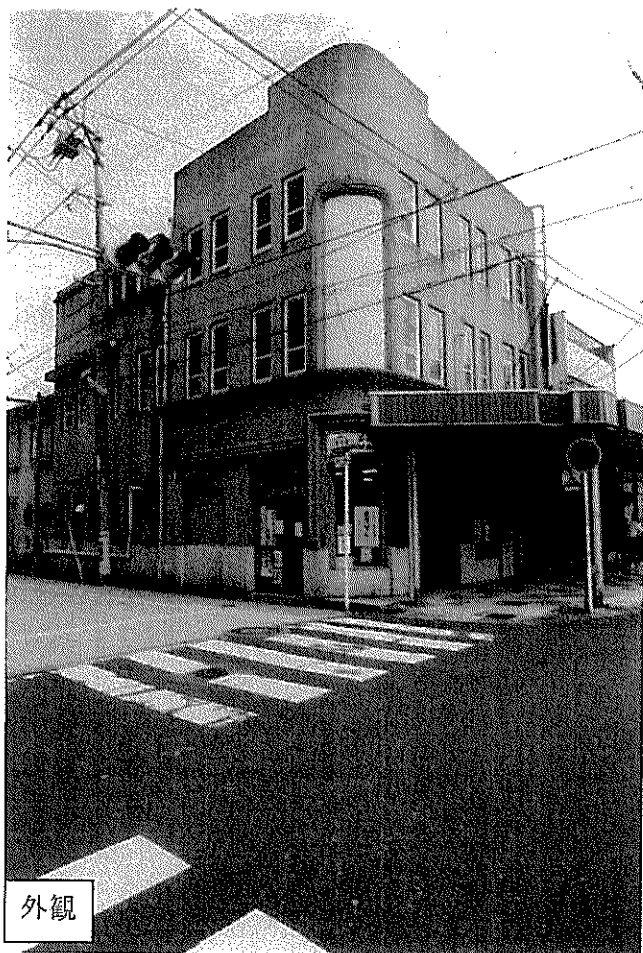
## 文化財の特徴等

名称	所在地	特徴など	建築年代
五臓圓ビル	鳥取市 二階町	<p>昭和6年に建てられた五臓圓ビルは、智頭街道と通称二階町通りの交差点に位置し、市内に現存する最古の鉄筋コンクリート造建築である。昭和4年に着工した旧県立図書館に影響され、市内で4番目の鉄筋コンクリート造建築として建てられた。施工は旧県立図書館と同じ大阪の新〈アタラシ〉工務所であるが、設計者は不詳である。</p> <p>当建築は3階建てで、地下室は倉庫、1・2階は店舗及び住居とする。3階は従業員宿舎として設計されたが、竣工後約半年で増築し、喫茶店およびレストランとして、営業を開始した。昭和18年の鳥取大震災では建物に影響を受けなかったが、昭和27年の鳥取大火では内部を全焼した。その後補強を行い、2・3階の用途を変えて利用していたが、近年は利用されていなかった。</p> <p>建物の北角を1/4円弧とし、外壁の仕上げには当時流行したスクラッチタイルを張る。当初は1階と屋上に水平の蛇腹を施していたが、近年、劣化に伴い急遽外装の修理を行った際に、上部の蛇腹は失われた。</p> <p>当建築は、市内現存最古の鉄筋コンクリート造建築であるだけでなく、鳥取大火で焼け落ちた町に残る五臓圓ビルの姿は市民の記憶に深く残っており、国土の歴史的景観に寄与しているとして、評価された。</p>	昭和6年 (昭和中期、昭和56年・平成9年に改修)

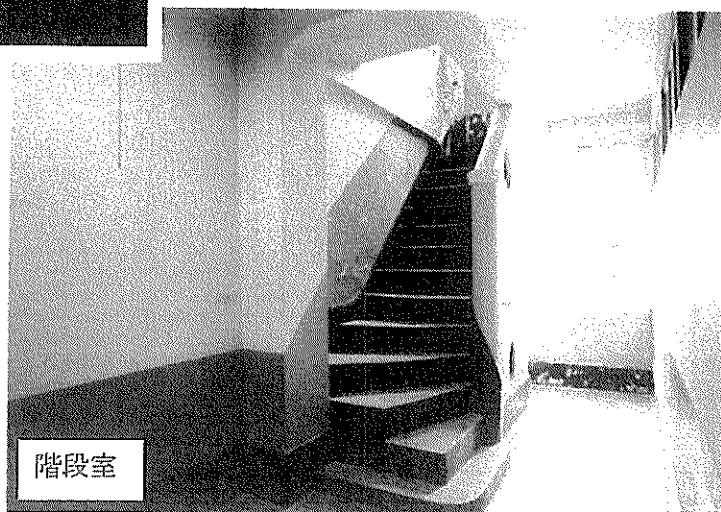
鳥取市の文化財件数（今回登録後）

国指定文化財	34
国登録有形文化財	7(8)
県指定文化財	94
市指定文化財	135

( )内は今回登録後



外観

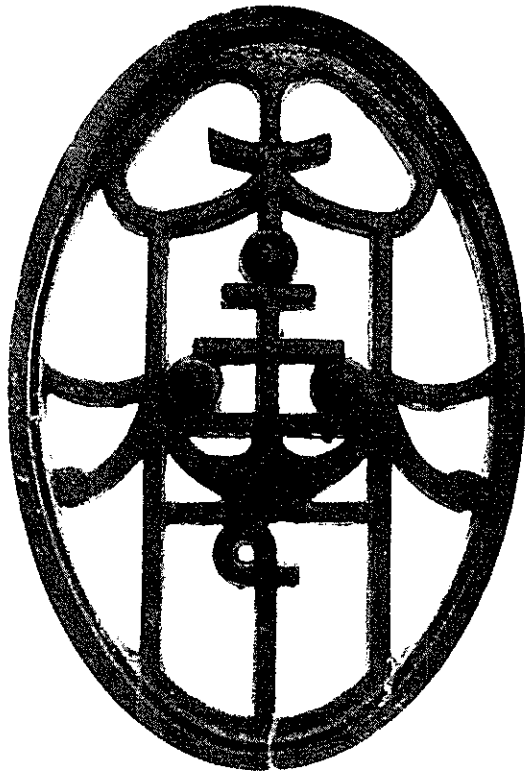


階段室



Gozen  
Building  
Renovation  
Project

# 五臓圓ビル 再生プロジェクト



五臓圓ビルを保存活用する会





# 耐震耐火の五臓圓ビル

—— 中心市街地の昭和の生き証人 ——

現存最古の鉄筋コンクリート造

五臓圓ビルは鳥取市の中心市街地で、大正から昭和初期に最も栄えた商店街の智頭街道と二階町通りの交差点にあります。鳥取市の本格的鉄筋コンクリート造の建築では協立銀行・鳥取市庁舎（但し鉄筋ブロック造）・鳥取県立図書館に次いで四番目に古く現存最古となっています。

森下家は藩政時代よりこの地で代々「石見屋」の屋号で生菓等の商いを営んでいた老舗です。初代の頃、僧より伝授された「三心五臓圓」という滋養強壯の家伝薬と各種生菓を代々扱い、日露戦争後は家庭用医薬を、大正には西洋医薬も卸小売する薬種商として栄えてきました。

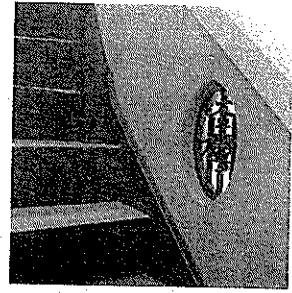
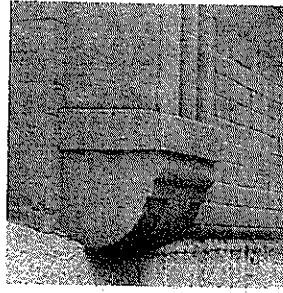
明治以降の薬種商としては四代目となる森下清治（明治6年生）の予てからの西洋館建築の願いを五代目秀隆（明治30年生）が受け継ぎます。昭和4年に着工した県立図書館に合せて同じ新工務所（大阪市北区・新定蔵・東伯郡八橋町出身）に工事を発注し、同6年1月に完成しました。県立図書館の設計者である置塩章の設計ではなきさうで、設計者はよく分かっております。

## 特徴あるモダン建築

様式は「近世復興式」とされ、当時の街並の中では群を抜くモダン建築でした。工事費は3万5千円で契約、内装費を含めて5万円に上り、県立図書館の総事業費が16万円だったことを考えると、



初代福助は大正初頃、鳥取の仏師で仁風閣の階段の手摺の彫刻をした、長谷川熊蔵作ということになっているが、実は後に日展会員の彫刻家として名を成す息子の長谷川研蔵（塊記）が父の名で彫ったものだった。鳥取大火で焼失し、現在は2代目の福助で、八橋の仏師森下真浄の作。



贅を尽くした建築だったようです。構造は鉄筋コンクリート造、陸屋根3階建てで、外壁は当時流行のスクラッチタイルを張り、パラペットの曲線コーナー部には3本と2本の蛇腹を施し、開口部は縦長窓となっています。かつては、嵌め殺し窓はステンドグラス、店内はイタリア産大理石、建具はチーク材、住宅部分の造作は尾州ヒノキの柱目など、高級な建築材料が用いられていました。また階段の透かし彫り鉄金物は「森下」の文字と「三心五臓」を圖案化したもので、とてもユニークな図柄です。（表紙の写真）

当初は、地下室は倉庫、1階は店舗及び住居、2階は住居、3階は従業員宿舍の予定でしたが、あまりの立派さに途中で3階はソーダーファウンテン（喫茶）とレストランに設計変更し、神戸オリエンタルホテルよりコックを呼び寄せて、鳥取市内で最高級のレストランとなったのです。



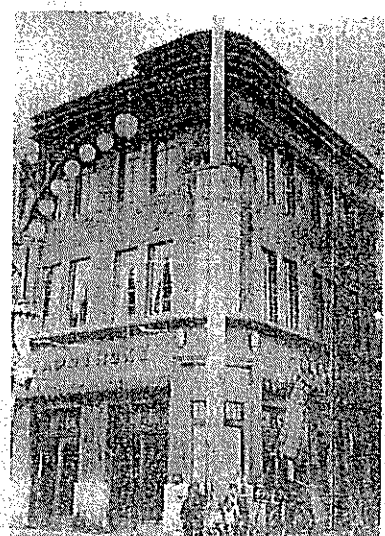
現在の建物になる前の五臓圓薬局、左に初代福助（大正15年『因幡之葉』より）



現在の五臓圓ビル



昭和60年当時の五臓圓ビル



完成当時の五臓圓ビル（昭和6年1月16日『因伯時報』より）

昭和6年に建築された五臓圓ビルは、鳥取大震災（昭和18年）と鳥取大火（昭和27年）にも  
耐え抜き、建築以来約80年を迎えようとしています。

五臓圓ビルは、智頭街道商店街付近が最も繁栄した昭和10～20年代には、街のシンボルと  
して燦然と君臨していたものです。しかしながら、現在では老朽化が進み、取り壊しを迫ら  
れる日もそう遠くない状況となって来ています。

6月29日に発足した「五臓圓ビルを保存活用する会」は、ビルの重要性を広く市民の方々に認  
知していただきながら募金活動や署名活動を行います。そして再生保存の改修を行うととも  
に、地域の活性化につながる利活用方法を、市民の皆様と一緒に考えてまいります。

ビルを保存活用することで、智頭街道商店街や二階町商店街はもとより、中心市街地活性  
化の起爆剤となり、鳥取市全体を活性化させたいという大きな夢を抱いています。市民の  
皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

## 五臓圓ビルを保存活用する会

### ■設立趣旨

五臓圓ビルの保存活用を具体的に推進し、もって鳥取市中心市街地の活性化に寄与する  
とともに、智頭街道商店街及び周辺地域の商業活性化を実現していくため、有志による  
会を立ち上げました。なお会として、より活動を充実させるために、将来的にNPO等の法  
人化も検討していきます。

### ■目的と会の役割

五臓圓ビルは、その歴史性や建築物としての重要性など、後世に語り継ぐべき存在であ  
り、また智頭街道商店街と二階町商店街の角地に立地しているため、近隣地区にとって  
重要な活性化拠点となる可能性を秘めています。

したがって、五臓圓ビル保存活用の目的は、他の建物とは異なる優位性・特異性を活か  
して五臓圓ビルを活性化拠点にすることです。そのための保存方法と活性化拠点としてふ  
さわしい活用を検討し、実践していくのが、五臓圓ビルを保存活用する会の役割です。

### ■実施事業（案）

#### 五臓圓ビルが持つ歴史文化を伝え、残していく事業

- 五臓圓ビル公開、案内
- 五臓圓ビル解説展示

#### 五臓圓ビルを保存していくための事業

- 五臓圓ビル掃除
- 五臓圓ビル耐震・防水工事
- 五臓圓ビル保存署名活動
- 五臓圓ビル保存募金活動

#### 五臓圓ビルを活用するための事業

- 2Fにテナント誘致（再生PJ、まちづくり団体と連携）
- 2F・3Fでのイベント開催、空間利活用（期間限定レストラン、カフェイベント、ギャラリー etc.）



## 五臓圓ビルを保存活用する会

事務局 〒680-0037 鳥取市元町274-6 智頭街道商店街(振)内  
☎0857-21-7995 携帯電話 090-3179-4743(常村) 090-2295-1457(森下)  
ブログ公開中 <http://keep.gozoen.co.jp/>

### 記録写真募集

当会では、五臓圓または旧市街地の昭和初期～中期の記録資料を探しています。  
お持ちの方はご連絡ください。複写(コピー)させていただき、ご返却いたします。